

# 弾き歌い指導における簡易伴奏について

## —本学保育科学生のアンケートと事例より—

藤 田 光 子

About the Simple Accompaniment Introduction in Song Accompaniment:  
A Case Study and Survey of Junior College Department of Childcare Students

Mitsuko FUJITA

### 【要 旨】

本学保育科では短期大学部1年次2年次器楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいてピアノの指導を行っている。1年次後期より「子どものうたの弾き歌い」課題が進むが、2年次前期の器楽Ⅲ終了時までに、単位取得が難しい学生についてはこれまで2年次後期に再履修する時間を設けてきた。ここ3年間の再履修学生において、弾き歌いの学習やピアノの練習についてどのような思いを持っているのか、これまでの器楽の進捗はどのようなものだったのかを調査する。学生の事例とともに簡易伴奏導入という視点で工夫された点や必要と思われる点についても掲載する。

### 【キーワード】

弾き歌い 簡易伴奏 コードネーム

## 1. はじめに

本学保育科では、保育者を目指す学生に対して器楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと1年半に渡り、ピアノの指導を行っている。1年次前期から1年次後期の前半までは、バイエル・ソナチネ・ソナタなどの教則本を学生の進捗に応じて行っている。1年次後期から2年次前期にかけて「子どものうたの弾き歌い」を行うが、課題曲35曲の合格に向けて思うように単位取得に至らない学生もいる。

保育科においてはこのような学生に対して再学習の機会として2年次後期に再履修の時間を

設けている。この再履修では、これまでの個人レッスン形式とは違い、再履修者すべてが音楽教室に集まり、集団レッスン形式で行われる。およそ20名が集団レッスンを行うため、個人レッスンのような綿密な内容は難しい面もある。しかしピアノを苦手とする学生にとっては、90分間ピアノの鍵盤に向かい、授業の時間帯だけでもピアノに張り付いて練習するという経験は、再履修をする学生にとっては非常に貴重なものとなるのではないかと考えている。

再履修した学生が、弾き歌いの学習についてどのような思いを持っているのか。また、再履修した学生がこれまでどのような進捗で器楽の

学習を進めてきたのかを後期開始時にとったアンケート結果と入学時のピアノ経験、さらにこれまでの進捗表をもとに調査する。

この半期間の再履修において成長が見られる学生は人数としては非常に少ないが、学生事例とともにアンケート調査をすることで、ピアノを苦手とする学生のピアノ学習に関する一つのヒントとなるものではないかと考えている。

さらには、この再履修内で行った内容について簡易伴奏導入という視点で本学の保育科学生に合わせた指導の工夫についても記載する。

## 2. 再履修の学生について

本稿内の再履修の学生とは、1、に記載の通り器楽Ⅲを未取得の学生を指している。平成23年度～平成25年度の再履修の学生についてこれまでの音楽経験を入学時の音楽経験調査より、また「子どものうた弾き歌い」課題の進捗については各自の進捗表をもとに調査する。

表1 再履修者入学時のピアノ経験について (人)

	H23	H24	H25
未経験	17	11	14
入学前2～3か月・高校のとき数か月	3	1	6
こどものころ2～3年以内	3	0	1

表2 器楽Ⅲ未取得の学生数 (人)

	H23	H24	H25
器楽Ⅲ未取得	23	12	21

表3 再履修者器楽Ⅲ終了時点の進捗 (人)

	H23	H24	H25
1～5曲未満	0	0	0
5～10曲未満	0	0	0
10～15曲未満	5	1	3
15～20曲未満	4	1	3
20～25曲未満	6	4	7
25～30曲以上	8	6	8

表4 器楽Ⅲ単位取得者の進捗 (人)

	H23	H24	H25
35曲～40曲未満	19	20	27
40曲～45曲未満	3	3	2
45曲～50曲未満	7	5	2
50曲以上	5	8	13

表1は入学時のピアノ経験調査の結果からである。器楽再履修のうち平成23年度では約74%、平成24年度では約92%、平成25年度では約67%が入学時に未経験であることがわかる。入学前に2～3か月、子どものころに2～3年の経験者についてもわずかな数であることが分かる。

表2においては、H23年度では学年の約40%、H24年度では約25%、H25年度では約32%の学生が器楽Ⅲ未取得となり、器楽の再履修を受けている。

さらに表3では、器楽Ⅲ未取得者が、器楽Ⅲ終了時にどのぐらいの進捗にいるのか「こどものうた進捗表」からの調査である。これをみるとこどものうた進捗表の20～25曲未満が例年最も多い。中には器楽ⅡⅢを通して約22回のレッスンにおいて10曲程度しか進んでいない学生もいる。このような進捗の学生についての課題は再履修の中でも検討し、さらに容易に弾ける課題の設定も必要となるため今後の課題とする。しかし、課題曲30曲以上の学生もおり、このような進捗の学生についてはあと少しで単位取得できた学生である。表4では、同様に器楽Ⅲにおいて単位を取得できた学生についてである。年度によって若干の差はみられるものの、例年

学年	進捗	人数	H23	H24	H25
1	0～5曲未満	0	0	0	0
2	5～10曲未満	0	0	0	0
3	10～15曲未満	5	1	3	
4	15～20曲未満	4	1	3	
5	20～25曲未満	6	4	7	
6	25～30曲以上	8	6	8	

図1 「こどものうた」進捗表

35曲～40曲までの進度の学生が最も多くなっている。

### 3. アンケート結果より

平成23年度～平成25年度保育科において器楽再履修受講者を対象に後期授業の第1回目にアンケートを実施した。回答数・結果は以下の通りである。

表5 回答者数 (人)

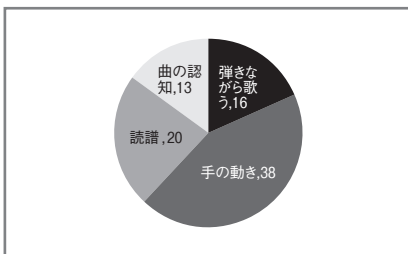
	H23	H24	H25
回答者数	19	12	20

表6 弾き歌いが難しいと感じるところは (自由記述)

H23	H24	H25
弾きながら歌う	弾きながら歌う	弾きながら歌う
左手が弾けない	左手が思うように動かない	左手の動きが複雑
両手が難しい	両手の演奏	両手が難しい
楽譜を読めない	楽譜を読む	楽譜を読む
知らない曲が多い	歌を知らない	曲を知らない
音符が多すぎる	どの指で弾いていかわからない	音符の数
音が飛ぶ	左手の移動ができない	音符以外の記号
		手の移動

自由記述であるが、3年間を通して同様の内容に難しさを感じる学生がいることがわかる。この3年間のアンケートを内容別に分類すると①弾きながら歌う②手の動き③読譜④曲の認知の4つに大きく分類される。

表7 弾き歌いが難しいと感じるのは (分類)



手の動きに関するものが最も多く、左手の演奏が難しいと感じている学生が3年間を通じて

多いことがわかる。両手の演奏が困難であるという回答のうち、左手の動きについて書かれているものも重複しているため、左手の演奏についての工夫により改善が見込まれると考える。また読譜については、音符の量や指の移動も関連すると考えられるため、これもこの再履修内で簡易楽譜やコードネームを使用することで、少なからず改善される可能性がある。

曲の認知については扱った楽曲については事前に歌唱を行い認知に心がけ、演奏に取り組めるよう工夫することが必要である。

弾きながら歌うことはピアノを苦手とする学生には非常に難しい面があり、実際にピアノの得意な学生についても弾きながら歌うということは困難な場合もあるが、片手演奏でも歌をつけながら何度も繰り返し練習することが必要である。

これらのことを踏まえ、手の動きと読譜また左手の伴奏に焦点をあて、再履修の授業を進めている。

表8 1週間の自主練習の時間 (人)

	H23	H24	H25
30分以内	6	2	20
30分～1時間	8	5	7
1時間～2時間	3	3	5
2時間～3時間	2	2	2
3時間～4時間	0	0	4

この結果から、ここ3年間の再履修の学生では1週間に30分～1時間以内というものが最も多く、30分以内のものも含めると、再履修のうち約6割の学生が週に1時間未満であることがわかる。これは毎週のレッスンが実施されている期間のことであり、後期になるといっそうピアノに触れる機会も減る可能性があることは容易に推測できる。そのためこの再履修では90分間は集団でピアノに触れるため、1週間に少なくとも90分は授業で、さらに各自で自主練習の時間をとることができればさらに練習機会が増加することを見込んでいる。

表9 楽譜が簡易なものであればやる気ができるか (人)

	H23	H24	H25
出る	17	11	18
出ない	0	0	0
関係ない	0	1	1
無回答	1	0	1

ここでは楽譜が簡易なものであればやる気ができるかと尋ねたところ、ほぼ全員が出ると答えた。しかしこの段階では実際にまだ学生は簡易楽譜を手にして演奏していないため、簡易伴奏がどの程度のものかは知り得ていない。しかし、表7の結果からも読譜が容易にでき、手の動きが複雑でないと思われる簡易伴奏が使用できるならば、やる気が起こりうると考えられる。

表10 音楽は好きですか (人)

	H23	H24	H25
好き	14	8	13
嫌い	0	0	1
どちらともいえない	4	3	5
無回答	0	1	2

ピアノに関して苦手意識を持つ学生たちも実際に音楽（歌うこと・演奏すること）は好きかと尋ねると、約7割以上のものが好きであると回答している。嫌いと答えたものは1名にとどまっている。表9表10からも学生のモチベーションを下げることなくこの再履修の時間が学生にとって有効に展開していくことは非常に重要であると考えている。

#### 4. 簡易伴奏の扱いについて

これまで器楽Ⅲの再履修については、学生が左手の移動や音符の量について不安を感じるケースが例年多いためコードネームを使用したものや左手単音のみの簡易伴奏に取り組んできた。

またこの授業では集団レッスンということもあって、授業のはじめに全員で行う簡単な指練

習をできるだけ取り入れている。その内容としては以下のような楽譜を全員でゆっくりと演奏し、指の準備運動を行うものである。集団レッスンであるので、時間にも限りがあり多くの時間を割くことはできないので、楽譜を読むことに時間がかからないよう、譜例1 譜例2のような内容を口頭で説明し5分程度の時間で可能な限り取り入れた。

譜例1



譜例2



この授業の中で実際に行ってきたことを踏まえると、簡易伴奏取り入れの効果として考えられるのは以下のような点である。

##### (1) 読譜の容易さ

まず再履修を受ける学生についてもほとんどの学生は右手の歌唱部分の旋律の演奏はできている。さらに旋律と歌唱までの練習は非常にスムーズに行うことができている。そこで、左手が入ることで非常に演奏に困難をきたしているため、再履修ではコードネームと単音伴奏を使用し、左手の音符が少なくなることにより演奏が安易になった。またこのコードネームを覚えることで、あえて左手の読譜の必要性がなくなり、安易に演奏することができるようになる。読譜自体も右手の旋律線のみであれば覚えて歌うことが十分に可能な状態である。またコードネームと並行して、左手単音伴奏も適宜取り入れた。単音伴奏では、左手が単音で作成されて

いる楽曲を使用し、右手主旋律を十分練習し、右手と弾き歌い。その後左手の単音を完成させるものである。この方法では左手で和音を押しさえ移動させることが困難な学生には有効な方法であった。

(2) 鍵盤の知覚

左手の移動を極力なくす方法をこの再履修については考えている。そこで、コードネームについては、あえて図2の基本形を使用せずに、最短距離で移動できる図3の転回形を使用する。基本形の方が和音の仕組みについては理解しやすいと思われるが、移動距離は長くなる。転回形の使用により図4のように、ほとんど左手の位置を移動させずに伴奏を付けていくことができるのである。

このコードネームの指番号については図4の○がCコード左手の指番号1番、3番、5番の使用、◎がGコードそのまま3番と5番の指をスライドさせて使用、●がFコード左手1番、2番、5番の使用である。



図2 基本形

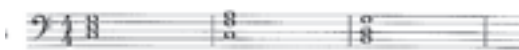


図3 転回形

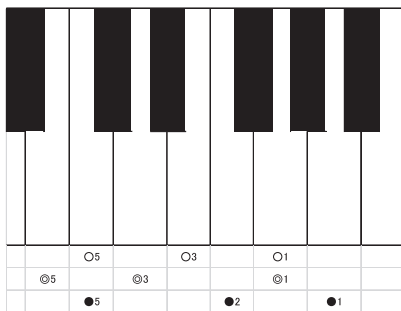


図4 鍵盤

(3) 成功体験の獲得や緊張の軽減

再履修の学生はうまくいく経験をほとんどもてないまま発表の場となることも多く、難易に感じる楽曲を演奏できたとしても、緊張の高い行為となっていることが推測される。普段の練習でもなかなかうまく弾けないのに、発表の場ではもっと弾けないという悪循環も推察される。そこで再履修の中では、自分自身で弾けたと思える曲を増やすことを目標とした。その学生の進捗で、今まで本格伴奏では弾けなかった曲が弾けたという体験、また仲間たちと実際に声を出しながら練習する集団レッスンのなかで、人前で演奏の緊張を少しでもなくし、みんなの前で声を出しながら弾き歌いをするということで、緊張の軽減と弾けたという思いの獲得を目指している。

次項では再履修を行った学生の3つの事例を挙げる。非常にうまく取り組めた学生や戸惑いを持った学生もいたが、比較的順調に演奏を進めることができたように感じられる。

5. 学生事例より

ここでは過去2年間の再履修の学生の中から事例を紹介する。[事例1] [事例2] [事例3]については非常に順調に取り組め、簡易伴奏を取り入れることで今までの苦手意識が多少なりとも払拭できた事例や非常によく努力出来たが、コード伴奏やその選択の難しさに気付いた事例も挙げている。

[事例1]

この学生は入学時未経験から始めた学生であり、器楽Ⅲにおいては35曲のうち15曲を合格していた学生である。

この学生の場合、本格伴奏をしているときは、1曲を1か月以上かけてもなかなか仕上がらないという状態であった。今回の学習の中で、左手にコードネームによる伴奏を取り入れた。これについては非常にうまくいき、半期間の集団レッスンでさらに11曲の楽曲を仕上げる事ができた。図3の転回形によるコードを



しっかりと覚え、この3つのコードを中心に学習を進めた。導入ではコードネームが楽譜に記されているものを使用していたが、この学生のケースでは、CGFのコードネームの理解が非常によく、左手の移動を苦手としていたこの学生もこの3つのコードであれば、どの順序であれ非常にスムーズに移動することができるようになった。また、和音の認知が非常によく、この小節にはCコード、この小節にはFコードという作成の段階も順調に進むことができた。

そのため、右手旋律・左手コードの伴奏形で多くの曲を仕上げていくことができた。

特に以下の表11においては実際に本格伴奏では演奏することが困難であった楽曲ばかりであるが、自分自身でコードを探し、コード伴奏を作成してさらにコードの数を増やすなど自分で工夫して演奏することができるようになった。

この学生の授業後の自由記述では、「非常に楽しく楽曲を演奏することができるようになった。これまでは人前で弾くことが嫌でたまらなかったが、子どもの前でも弾いてみたいと思うようになった」との回答があった。

表11 コードの記されていない楽曲例

	作詩	作曲	編曲
とんぼのめがね	額賀 誠志	平井康三郎	
どんぐりころころ	青木 存義	梁田 貞	
たきび	巽 聖歌	渡辺 茂	
おもいでアルバム	増子 とし	本田 鉄磨	
せんせいとおともだち	吉岡 治	越部 信義	伊藤 慶樹

表12 コードの記されている楽曲例

	作詩	作曲	編曲
ながぐつマーチ	上坪 マヤ	峯 陽	
やきいもグーチーパー	阪田 寛夫	山本 直純	
いとまき	外国曲		
おおきなトンネル ちいさなトンネル	まどみちお	渡辺 茂	
いちのゆびとうさん	まどみちお	渡辺 茂	
おおきなくりのきのしたで	作者不詳・外国曲		
すうじのうた	夢 虹二	小谷 肇	

[事例2]

この学生は入学時未経験から始めた学生であるが、器楽Ⅲにおいては35曲のうち13曲合格していた学生である。

この学生の場合、2年次前期は7曲のみ合格であり、本格伴奏を演奏するのに非常に時間がかかり苦勞した学生である。

簡易伴奏では、楽曲にコードネームの記された楽譜と左手単音のものを中心に使用した。10曲のうち7曲はコードネームが記されたもの、その他は表11のコードネームが記されていないものから扱った。さらに単音伴奏ではコードの基本形のベース音のみのものを扱った。

コードネームが記されていない上記の楽曲については、コード伴奏のつけ方を説明し、右手は歌唱する旋律のみ演奏し、楽譜に○しるしをいれその○しるしの中にコードを選んで入れていくという取り組みを行った。図6のように旋律の上に○しるしを入れ、そこに3つのコードのどれを選択すればよいかを考えていった。右手の旋律に出てくる音と、和音の構成音の同一のものを探りながら、学生は実際に音を出しながら選択していった。[事例1]の学生も同じように取り組んだがこの学生は自分で○しるしを入れ、さらに1小節に1コードだけではなく、増やして演奏することも取り入れていったが、この[事例2]の学生は○しるしを自分で入れたり、増やしたりしていくのは困難であり、指導者が援助する形で進めた。しかし、コード選びについては非常にうまくいき、どこでコードを入れるかという場所が理解でき

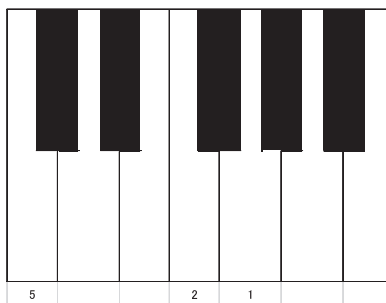


図5 鍵盤

ば、コード選びについては順調に進むことができた。また左手単音伴奏についてはとても容易に演奏ができ、歌いながらの演奏も十分にできるようになった。単音の使用については図2基本形のベース音の使用と簡易伴奏楽曲を使用した。



図6 楽譜例

この学生の授業後の自由記述では、「はじめ難しかったが、このような方法があることを知ることができてよかった。いつも弾けない、弾けないと思っていたが、弾ける曲が増えてくると楽しい」との回答であった。

[事例3]

この学生は入学時未経験から始めた学生であるが、器楽Ⅲにおいては35曲のうち27曲合格していた学生である。未経験から始めた学生であるが、器楽Ⅲにおいて非常に努力し後半の楽曲を除いては本格伴奏を比較的演奏できるようになっていた学生である。時間をかければ本格伴奏も仕上げることの可能な学生である。

導入では、コードネームの記されたものをはじめに扱いその後本格伴奏での演奏が困難であった楽曲を中心にコード入れの順で演奏を進めていった。

コードを入れる場所とコード選択がなかなか思うように進まず、自分で作成してもそのコードがあっているかどうかがよくわからないという状況があった。[事例2]の学生と同様に指導者が援助しながら進めたが、楽譜通りに演奏することには非常にまじめに取り組み、進捗についても十分努力できていたが、コードを選択し入れるという作業ははじめなかったようである。

授業後の自由記述では、「コード伴奏の考え方はわかったが、その音であっているかどうかはわからずなかなか積極的に伴奏付けができなかった。初めから書かれてあるものについては

安心して演奏することができた。簡易伴奏で弾けない曲が弾けることはとても楽しいが、もう少しいろいろな曲でも挑戦してみたい。」との回答であった。

6. 授業後の自由記述とまとめ

5. では学生事例を3例挙げたが、実際に平成23年度から平成24年度の再履修受講者については、授業終了後に授業の感想も含め簡単なコ

表13 自由記述

H23
楽しかった
一人では難しい 思ったより簡単
簡易伴奏を今まで知らなかった
はじめから知っていれば楽だったかも
ピアノでいっぱい苦しんだのでこの方法を知ることができてよかった
弾ける曲が増えた
試験が嫌でなかった
歌いながらできた
思うようにはできなかった
楽譜にコードが書かれてあることに気付いた
このような方法があることを知ることができてよかった
いつも弾けない弾けないと思っていたが、弾ける曲が増えてくると楽しい
H24
コードの存在に気付いた
簡単だった
弾けるのが増えた
楽だった
少しだけピアノが好きになった
みんなでやったのが楽しかった
人前でも弾きたくなった
わかったがうまくはまだできない
非常に楽しく演奏することができるようになった
人前で弾くことが嫌だったが、子どもの前でも弾いてみたいと思うようになった
音があっているかどうかはわからずなかなか積極的に伴奏付けができなかった
書かれてのあるものについては安心して演奏することができた
もう少しいろいろな曲でも挑戦してみたい

メントを自由記述の形式で実施した。このとき簡易伴奏・コード伴奏について思ったことも併せて記入してもらうよう促した。

この自由記述より、苦手意識を持っているであろう再履修の学生が「思ったより簡単であった」「弾ける曲が増えた」「歌いながら弾けた」「この方法を知ることができてよかった」「少しだけピアノを好きになった」「いろいろと挑戦してみたい」などと前向きなコメントが出てきたことは非常に喜ばしいことであった。また簡易伴奏としてのコード伴奏や単音伴奏がなじみ易かったこと、簡易伴奏の存在が少しでも苦手と感じる学生の演奏に関する可能性を広げていることが感じられた。また2年間をかけて思うようにピアノ学習が進まなかった学生に関する簡易伴奏の課題や導入方法についてもさらに今後の課題として深めていきたいと考えている。

### 【参考文献】

- 1) 小林美実編 『こどものうた200』 チャイルド社 2011
- 2) 小林美実編 『続 こどものうた200』 チャイルド社 2011
- 3) 小林美実監修 井戸和秀編 『いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた100』 チャイルド社 2009
- 4) こどものうた進捗表 別府大学短期大学部平成23～25年度